

日本の農業を救う カリスマ

連載③

提供・森之内農園



熊本市 九州エコファーマーズセンター
木之内均さん

ここ10年で毎年約5万 エコファーマーズセンター
人が農業に就いている。1がある。四十数軒の
そのうち49歳以下は毎年 農家が会員。NPOは3
約2万人。積極的な受け 人にサポートメンバ―2
入れを行っているのが 人の体制。これまで研修
「公益社団法人日本農業 を含め1260人を受け
法人協会」だ。加盟法人 入れ、独立は143人。
は約2000社。注目の 農業法人の雇用就農は1
団体の一つに熊本県合志 12人の実績がある。
市采の「NPO法人九州 2003年11月発足。

年間200人が集まってくる理由



インターンシップ生らと事務局と
農家の交流 (提供・木之内農園)

現役農家たちが農家に なりたい人を助ける

農業法人「木之内農園」均さん(61)は東海大学
(村上進社長)を中心に 教授。大学連携で学生の
農家7軒で設立された。 インターンシップの受け
「木之内農園」はイチゴ 入れも行っている。
観光農園、加工、販売所、「現役農業者が新規就農
通販などを手掛ける。創 者を育てていこうと農業
業者で現・会長の木之内 者が立ち上がった」とは
50過ぎの方まで。東京、

事務局長・吉村孫徳さ
ん。吉村さん自身も東京
から「木之内農園」に参
加した一人。
(受託)しているもの。
無料で参加できる。
NPOの会員が、観光
農園、果樹・畜産、有機農
業など、さまざまな農業
をしていることから、イ
ンターンシップではいく
つかの農業経営を見ても
らう、新規就農者から直
接、独立から販売までの
話を聞くこともできる。
「アスパラ、ミニトマト
など施設栽培も多い。ハ
ウスは新設だと2000
万円くらいかかる。農家
のネットワークで中古ハ
ウスを新規就農者に確保
することもしています。
0万円を交付。最長2年
間)が活用されている。
就農直後の経営確立を支
援する経営開始資金(年
間150万円、最長3年
間以内)体験できるもの。
「受け入れ農家の方の近
くに就農してもらい、家
も近くに確保するという
補助事業として運営
形でやっています」(吉村

大阪も含めて九州各県か
らもお見えになります。
東京農業大学、農業高校
からも参加があります」
(吉村さん)
農業実習は国のインタ
ーンシップ制度がある。
学生・社会人が全国に約
2000ある農業法人など
で短期間(2日以上6週
間以内)体験できるもの。
日本農業法人協会で19
99年度から農林水産省
も近くに確保するという
補助事業として運営
形でやっています」(吉村

取水・文II金丸弘美)
水曜掲載